

日蓮大聖人御書全集

だんおつぼうごへんじ

檀越某御返事

新版
1718
ゝ
1719

だんおつぼうごへんじ

檀越某御返事

こうあんがんねん

がつ にち

弘安元年('78)

4月11日

57歳 さい

おんふみ

承

そうら

お

御文うけたまわり候了わんぬ。

にちれんるざい

さきざき

災

かさ

そうろう

日蓮流罪して先々にわざわいども重なつて候に、また

何 もう

そうろう

思

ひと

損

なにと申すことか候べきとはおもえども、人のそんぜん

そうろう

ふかしぎ

そうら

そうら

とし候には不可思議のことの候えば、さか候わんずら

ぎそうら

もち

そうら

ひやくせんまんおくばい

ん。もしその義候わば、用いて候わんには百千万億倍の

幸

こんど

みたび

そうろう

ほけきよう

にちれん

さいわいなり。今度ぞ三度になり候。法華経も、よも日蓮

緩

ぎようじや

仰

をばゆるき行者とはおおせじ。

しやか たほう じつぼう しよぶつ じゆせんがい ごりしよう こんど見果
釈迦・多宝・十方の諸仏・地涌千界の御利生、今度みはて

そうら 候わん。あわれ、あわれ、さることの候えかし。雪山童子 せつせんどうじ

あと 追 ふきようぼさつ み そうら 候わん。あわれ、あわれ、さることの候えかし。雪山童子

疫 病 侵 そうら 候わん。あわれ、あわれ、さることの候えかし。雪山童子

やくびようにやおかされ候わんずらん、おいじににや死に

そうら 候わんずらん。あらあさまし、あらあさまし。

ねが ほけきよう こくしゆ 怨 こんどしようじ

願わくは、法華經のゆえに国主にあだまれて、今度生死を

はなれ候わばや。天照太神・正八幡・日月・帝釈・梵天

等 ぶつぜん おん 誓 こんどころ そうら 候わん。あわれ、あわれ、さることの候えかし。雪山童子

事々さておき候いぬ。各々の御身のことは、これより申

計

しはからうべし。さておわするこそ、法華經を十二時に行

ほけきよう

じゆうにとき

ぎよう

たも

そうろう

ぜさせ給うにては候らめ。あなかしこ、あなかしこ。

おん 宮 仕

ほけきよう

思

いつさいせけん

ちせい

御みやづかいを法華經とおぼしめせ。「一切世間の治生

さんぎよう

みなじつそう

あいはい

産業は、皆実相と相違背せず」とは、これなり。

返

おんふみ

こころ

思

そうら

きようきよう

かえすがえす、御文の心こそおもいやられ候え。恐々

さんげん

謹言。

しがつじゆういちにち

四月十一日

にちれん

かおう

日蓮

花押